

観察力を持って地域の未来を描き 実現できるよう学び、研究します

私は人口減少・高齢化が進む農村社会において、地域創生の実践活動に携わって来ました。この度大学院に入学し、地域実態を調査分析する能力を高め、農村社会の研究フィールドでの活動の実践と地域変化の研究を継続するために地域開発政策専攻で学ぶことにしました。

大学院では専門的な学問の知識修得と、研究に関する先生方との議論を深め、蜻蛉の眼の如く複眼的な視点による思考・観察力を身につけたいと考えています。

また充実した研究環境及び温かい生活支援が施されていますので、学ぶ意欲を高められ、学修生活に専念することが可能となります。

私は大学院で学んだことを活かし農村社会が持つ資源を掘り起こし、現在さらに将来に予測される社会事象に立ち向かい、持続可能な地域社会のありかたを研究しようと考えております。

大学院の進学を考えておられる方へ。本研究科は学修環境が十分に整えられております。皆さんも自らの研究心の扉を開いてみませんか。

品川 隆博

博士前期課程
地域開発政策専攻
出身：島根県



研究者の道への歩み、 最初の歩はここから…

修士時代に、先生たちのご指導とご鞭撻のおかげで、非常に充実した2年間を送り、北東アジア超域専攻の博士後期課程に入学しました。当初から、博士後期課程に進学しようとする志望を持ち、将来、研究者の道に歩いていく夢を抱いています。

北東アジア超域研究は学際的視点から問題への検討が必要だと先生たちに教わってきました。単に自分の専門内の事柄を勉強するだけでなく、ゼミの時に、他の院生との議論を通じて、多方面の知識を習得することも目指します。定期的に自分の研究進捗を報告して、合同発表の場で院生同士の意見交換をし、研究の専門性も高めます。研究に対して多少不安もありましたが、研究上の悩みと論文が行き詰まる時に、先生たちからアドバイスをいただき、不安も解消できました。

研究者としての道は果てがないとよく言われています。研究者の卵として育てられた私たちは、日々の研究の積み重ねが重要だと思います。ここ、島根県立大学で、皆さんと一緒に研究者としての夢を描きませんか。

李 強

博士後期課程
北東アジア超域専攻
出身：中華人民共和国



STUDENT S' VOICE

> 博士号取得者からのメッセージ



私は地元、浜田の出身ですが、30年の海外滞在を含めて県外に長く生活した後、故郷にUターンした社会人です。若い学徒にとって博士号の取得は研究者としてのスタートですが、いわゆる団塊世代に属する私が博士後期課程に進んだのは、同世代の友人たちがそろそろ退職して悠々自適の生活に移行しようとしているときでした。今さら何を勉強するのかと周囲は不思議がったと思います。修士課程に引き続き、食品安全政策の研究をテーマとして、十分な根拠に支えられた議論を展開するという研究姿勢をもっと養いたいという強い思いがありました。本学大学院では先生がたから親身の指導を受け、自らを再教育する貴重な機会を得たことを大変感謝しています。今後、私の収穫を何らかの形で地域にお返ししたいと願っています。

玉置 悦子 氏



私は2009年10月に博士課程に入学し、2015年9月に博士号を取得しました。島根県立大学にいた6年間は私にとって掛け替えのない6年間だと思っています。6年は長い日々ですが、研究の道で一步一步着実に進んだ日々でした。

私は博士課程に入った時から、必ず博士号を取るという強い意志を持っていて、研究計画を立てました。そして先行研究を沢山読んで、フィールドワークに三回出かけました。4年目から論文を書くことだけに集中しました。博士論文を書くことは決して平坦な道ではありません。研究が行き詰まった時もありました。その時に、勉強を楽しむべきだという先生の一言が心の支えになりました。

これから博士号を取ろうと努めている皆さんも、ぜひ明確な目標とスケジュールを持って、浜田の美しい自然の中で、勉強を楽しんでください。研究が進んでいる時も、困っている時も、常に指導教員や研究室の仲間たちと交流してください。そうしたら、きっと道が開けていくと信じています。

烏日麗格 氏



わたしは中国の大学の教員を歩み始めて23年目を迎える年に、島根県立大学大学院の門を叩きました。大学院に在籍中、諸先生方のご指導や職員の方のサポート、共に研究の苦しみや喜びを分かち合った院生同士の支え合い、そして家族の理解のおかげで、私は学問の醍醐味を味わいながら、国際交流活動やボランティア活動及び子育て、介護に挑戦して、充実した大学院生活を送ることができ幸せでした。大学院で学ぶ機会を与えてくださった島根県立大学には、心より深く感謝申し上げます。これから、大学院で培った知識と経験を活かし、社会に貢献できるよう、頑張っていきたいと思えます。

趙 冰 氏



私は、北朝鮮の問題をよりよく理解したい好奇心を持って、修士課程の研究テーマを発展させようと、2012年10月に博士後期課程に進学しました。

2018年9月に博士後期課程を修了するまでの8年間の浜田での生活は、私の一生で忘れられない思い出になっています。現在も毎週の講義を準備するたびに、浜田の風景が頭に浮かんできます。特に、指導教員の学術に対する熱情、学生に対する責任感や人間味、浜田市民の留学生に対する思いやりという宝物を心深く感じて、今後の人生を歩んでいきたいです。

私は留学生生活を通じて、如何に辛い時でも、満足と感謝の心があればどんな困難でも乗り越えられることを悟りました。

崔 穎麗 氏 現職：中国 九江学院 マルクス主義学院 専任講師



私は、中国上海外国語大学、英国Brunel University大学院修士課程を経て、2009年10月に島根県立大学大学院博士後期課程に入学し、ニューメディアに関する経済的研究について、2018年9月に博士号を取得しました。

海と山に囲まれた美しい浜田における9年間の勉強生活を通して、「鳥の歌声」と「星の輝き」とともに、学問を追求しながら、夢を叶えてきました。

今後、指導教員らに学んだ学問態度とプロ意識に従い、ソクラテスからプラトンへ、プラトンからアリストテレスへ、知識を伝えたように、私は島根県立大学で習得した学問を伝えていきたいと思えます。

最後に、恩師をはじめ指導していただいた島根県立大学の諸先生方に深く感謝を申し上げたいと思えます。

李 韵 氏



私は、より深く研究するため、そして大学の先生になるという夢を叶えるため、2014年4月に島根県立大学大学院の博士課程に進学しました。

2019年3月に本学で博士号を取得し、現在は中国の九江学院外国語学院の専任教師として勤務し、複数の科目を担当しています。

私は、修士・博士と一貫して、地方財政学を研究してきました。島根県立大学の博士課程で研究ができてよかったと思うことは2つあります。まず、グローバルな広い視野に立って自ら問題の本質を見いだして課題を設定し、それを追究・解決するという、研究者としての必要な能力を修得しました。もう一つは、国際会議などでの発表経験を積むことにより、研究成果記述表現能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などの教育者としての必要な能力を修得しました。

孫 萌 氏 現職：中国 九江学院 外国語学院 専任講師